研究区分	学部研究推進

研　究 テーマ	ムセイオン静岡を通じた地域一体型教養教育モデルの構築				
研究組織	代　表　者	所属・職名	国際関係学部・特任教授	氏名	富沢　壽勇
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川　光洋
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	冨澤　かな
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山　優子
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	森　直香
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	鈴木　さやか
		所属・職名	静岡県立大学・非常勤講師	氏名	立田　洋司
		所属・職名	短期大学部こども学科・准教授	氏名	藤田　雅也
		所属・職名	短期大学部こども学科・講師	氏名	山本　学
	発　表　者	所属・職名	国際関係学部・特任教授	氏名	富沢 壽勇

講演題目

ムセイオン静岡を通じた地域一体型教養教育と人材育成

研究の目的、成果及び今後の展望

本研究は７つの文化教育機関（本学、県立美術館、県立中央図書館、県埋蔵文化財センター、舞台芸術センター（SPAC）、グランシップ、ふじのくに地球環境史ミュージアム）の連携枠組みとして定着しつつある「ムセイオン静岡」を通じ、さらに地域社会とも連携しながら本学の教養教育を実験的に展開し、真の生きた教養教育とは何かを追究し実践して行くことが主たる目的である。具体的には、全学共通科目「舞台芸術」「MUSEUMと文化」「世界の文化遺産」などの授業を通じて、ムセイオン関連の文化教育機関と本学との人的交流を深め、地域社会で本学の文化教育活動における触媒的機能を高めるとともに、学生にはこれらの諸機関を通じて生きた教養を体得する機会を提供し、このような基盤形成による人材育成を目指している。そして、本学を中心にムセイオン静岡関連諸機関のヨコの連携とネットワーク作りを計りつつ、さらにタテ軸としての地域社会が有する文化資源、社会資本を教養教育に最大限に活用するモデルを構築することが本研究の重要な使命となっている。

本プロジェクトによる交流事業として、今年度も「舞台芸術」関連で静岡出身の国際的フルーティストを講師として招聘し、近代西洋音楽から古代東洋音楽、さらには日常の卑近な世界にまで及ぶ多彩な領域での音を学生たちに幅広く体感してもらい、音の感性の重要性を相互に共有する貴重な機会となった。また研究分担者の細川は静岡で活躍した文学者たちの作品群を中心に文学と音楽の関係を追究し、読む、聴く、さらに味わうといった五感を駆使した教養の意義について一般市民講座等を通じて実践的な普及に努めた。本事業ではすでに恒例となったこどもプロジェクトの世界児童画展は今年度も予定通り開催でき、グローバル次元の異文化体験を本学学生や地域の親子に共有してもらう機会を提供し、地域社会にもだいぶ根付いて来た。このほか、代表の富沢壽勇、分担者の冨澤かなは、いずれも静岡県立美術館協議会委員として同協議会に参加し、同美術館の現状と運営の観点から本学との更なる連携を企図した構想や提案について積極的な意見交換、情報交換を重ねてきた。これまでムセイオン事業で積み上げて来た人脈と経験知の活用と成果は着実に本学全体に普及浸透しつつある。このような一連の文化プロジェクトを通じて、関係諸機関や地域社会と連携した教養教育のモデルによる人材育成の方向性は相当に整備されつつあり、今後はこれをさらに定着させ、その裾野を拡大して行きたい。